

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270400920		
法人名	株式会社メディウェル		
事業所名	グループホームみつわ台桜レジデンス		
所在地	千葉県若葉区みつわ台1-1-4		
自己評価作成日	平成25年11月30日	評価結果市町村受理日	平成26年3月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ACOBA		
所在地	千葉県我孫子市本町3-7-10		
訪問調査日	平成25年12月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・医療面には特に力を入れ、利用者様の小さな変化にも気を配りながら、医師と綿密な連携を図っております。 ・四季の移り変わりを肌で感じて頂けるように、天気の良い日は、その人のペースに合わせて散歩に出かけ、雨天時などは、室内で歌集に合わせて歌うことにより楽しい時間を過ごせるようにしています。 ・ホーム内では、家庭的な雰囲気を大切に、利用者様が安心していただけるように、職員が目配り・心配りしています。 ・自立支援の視点を大切に、できること・できないことを把握し、利用者様が必要とされていると感じられるようにしています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当グループホームは、住宅街の一角にあり、2階建て2ユニットで、開設9年目となる。ホームの母体は医療法人「厚生会」で、医療面でのバックアップが心強いのが特徴である。法人の理念に則り、「利用者に安心、安楽なケアを提供する」ことを目指し、利用者様の小さな変化にも気を配り、必要なら常駐の看護師と医師の連携で適切な処置がとれる体制になっている。ホームの雰囲気は家庭的で、職員間の連携も良く、利用者家族の訪問も多い。毎月発行される「桜便り」は写真を多用し、利用者様のホームでの様子がよくわかると好評である。自治会にも加入し、地域の大掃除、敬老会、小学校の運動会にも参加する等地域との交流を重視した運営に努めている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	5つの理念を定め、具体的に提示して職員に伝えている。常に意識して認知症ケアがぶれないよう共有して実践に取り組んでいる	5つの理念に則り、「利用者に安心、安楽なケアを提供する」ため、職員同士が連携良く、協力し合いながら、日々のケアに取り組んでいる。家庭的な雰囲気、利用者家族も訪問しやすい環境となっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会活動や敬老会に参加したりホーム行事・運営推進会議への出席などの働きかけをしている。日常の散歩時、挨拶を交わしている	自治会に加入し、町内の大掃除、敬老会、小学校の運動会等に参加している。ホームの夕涼み会には地域の方を招待している。毎月フラダンス、ギター演奏等のボランティアの来訪がある。地域の学校の実習生も積極的に受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者支援の毎日で手一杯が、正直なところで、地域の高齢者の役に役立つまでの広がりはない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、民生委員、地域包括支援センター、家族の方々と利用者の生活の実際を報告し、毎回テーマを決め発表。民生委員を囲んで、家族様同士和気あいあいとお茶をのんだりして意見交換をしている	今年度は年3回実施している。前回はホームの現状、防火安全対策および嚙下等について討議された。毎回利用者家族の参加が多く活発に意見交換されるのが特徴で、出された意見を運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	千葉市の担当課と密に連絡を取っている。市役所、区役所に行った折には、様々な相談をおこなっている	運営推進会議での意見交換に加え、ホーム長が市のグループホーム連絡会の世話役をしており、2ヶ月に一度は情報交換しており、必要な時にはいつでも相談できる関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内外で研修を重ね、拘束のないケアを実践している	月1回の研修会等を通して、職員は身体拘束に対する理解を深め、言葉の拘束もしないよう意識したケアに努めている。玄関の施錠もしておらず、見守りで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内外で虐待防止について学び、虐待が見過ごされる事がないよう、注意をはらっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内外で研修に参加、学ぶ機会を持ち、それらを活用できる様知識を共有している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、十分な説明を行い、理解していた		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が安心して暮らせるホーム作りを常に目指している。言葉で表現が出来ない人は意を汲み取れるよう支援している。玄関に意見・要望ボックスを設置。推進会議などで意見、要望を伝えて頂ける時間をとっている	利用者家族の訪問が多く、訪問の都度、あるいは運営推進会議およびその後の懇親会等で利用者家族との意見交換が積極的に行われており、出された意見は運営にも反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見を年1回希望・要望アンケートにまとめてもらい、個々に面接の時間を設け意見を吸い上げ、共に共有して取り組んでいる	月例のユニット会議は、全員が参加できるよう、午前中早い時間に開催している。参加できなかった場合でも、管理者と職員との情報は共有できており、意見は出しやすい雰囲気になっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持って働けるよう、環境・条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的にスキルアップ研修を重ねている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉県グループホーム連絡会に所属しており、勉強会・研修会などで意見交換している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望の本人からは、聞き取る事が困難な場合もあるが、様子から汲み取る努力をしている。家族より聞き取るように相談を行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現在出来る事と出来なくなった事など、家族が伝えたい事を汲み取る様努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の要望に応じており、その他のサービスや施設等の説明も行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に掃除したり、買い物や料理を一緒に行ったりして生活や楽しみを共有している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会が多く、共に話し合い、支援方法などを検討し本人を支える関係が築けている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	カット屋さんなど、馴染みが壊れないよう支援している	馴染みの美容師の来訪や、ボランティアの方との交流でフラダンスや歌を楽しんでいる。仕事仲間の旧友が訪ねて来て、懐かしい時間を過ごしたり、家族と時折外食に出かける等、関係が途切れないよう支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事に座る位置や、お茶を飲む時等、助け合ったり話が出来るように工夫している。利用者同士の係わり合いにも気を配っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも面会や、外出が出来るように運営している。色々な関係が継続できるよう支援している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者主体である事に常に確認し合い、個別のケアについては、出来る限り支援している	ひとり一人の心情を大切にして、何が得意な方かどんな希望を持っているかを、「心の引出しが合ったとき、言葉が出る」との思いで声掛けや目配り、気配りでその把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面会時など、今までの生活習慣や環境など在宅でのサービス利用状況など、家族や担当のケアと経過を踏まえ支援方法を考えている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別ケアの実施、身体レベルに合わせ残されているかなどに配慮し、自立支援に結びつけている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員が様々な角度からアセスメントし、安心して暮らせるような支援、家族と話し合った事柄をプランに反映させている	毎日のケース記録と主治医の所見を参考に、利用者・家族の意向と、居室担当の情報をもとに、介護計画が立てられている。話し合いは朝の時間帯に開かれ、状況の変化に素早く対応できるよう、全職員で情報を共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎朝の申し送りや日々の様子、記録で情報を共有しており実践にも活かしモニタリングの参考になっている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会時間や外出時間など家族の都合に合わせて柔軟に対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の社会資源を把握し活用しながら、地域に見守られ、安全で豊かな生活を楽しめるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が医療法人であり、その医院に内科・精神科があることから、専門分野の一つで、認知症に関する指導、助言が受けられる。往診もされている	県外ではあるが、経営母体の医院からの往診や指導がある。口腔ケアにも力を入れ嚔下りハビリに取り組んでいる。日常の健康管理は看護師と主治医との連携で、入院や通院の同行、投薬管理も支援している。	急患の場合、認知症ということで救急車の受入れ先が決まらなかった経験もあるので、近隣に提携病院を見つける事を期待したい。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週5日はナースが勤務しており、ケアワーカーとナースが情報を共有・相談して適切な受診や看護が受けられるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ターミナルケアを視野に入れ、看護師の体制を厚くしている。又、入居者が入院した時は、ケアマネ・職員がお見舞いを重ねるなどして、医療機関との連絡を密にし、情報を共有し連携を取っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアのホームの方針を説明し、チームで支援に取り組んでいる	特別医療の必要の方以外は、ホームでターミナルを過ごせる方針が説明されている。家族とはその都度話し合い、方向性を同じにし介護にあたっている。利用者・家族の90%の方が、最期をホームで迎えたいという願いを持っている。先月もお二人の看取りを経験している。	看取りを経験した職員は大事な場面で携われてよかったと話しており、これからも今の取り組みを継続されるよう期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部での応急手当の受講に参加したり、業務ミーティングでの勉強を重ねている。緊急時の対応をシートにまとめ何時なんどきでも対応できるようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	様々な場面での避難訓練を行なっている。連絡網にて、先ずホーム近くに住んでいるメンバーより駆けつける体制を取っている	避難訓練は事業所独自で種々の場面を想定し、利用者も参加して行われている。近隣の協力で避難場所として近くの駐車場が確保できている。夜間の職員2名体制の訓練の実施を計画している。	今後消防署立ち合いの夜間想定訓練、(夜間職員2名体制)の取り組みや、近隣住民の協力体制の構築に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の誇りやプライバシーを損ねないよう常に優しい言葉がけで、さりげなく対応している	ひとり一人の人格を尊重し常に優しい言葉掛けを心掛けている。職員との会話には、ありがとうの言葉が行き交い、声の出にくい方の嬉しそうな顔やうなずきがみられ、目配り、気配りの行き届いた取り組みがされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべく自己決定を尊重し入居者の希望を引き出せる言葉がけを心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースや状況を考え日々の支援を行っている。出来る限り希望に添える様努力している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ホームに理容師が訪問して頂いたり、家族と出かけて美容院に行っている利用者もあり、整容や身だしなみにも配慮している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下ごしらえ、おしぼりたたみ、片付けのお盆拭きなど利用者に合ったお手伝いをされている	料理は手作りで、職員が交代で行っており、旬の食材が食卓に上り、利用者も下拵えや、片付けなど、自分のしたい事を手伝っている。食事前全員でする口腔体操は、嚥下機能が良くなり、誤嚥の予防となっている	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表が作成せれており、摂取カロリー、栄養バランスは、把握されている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食時の口腔ケアの実施、週1回の訪問歯科による口腔ケアを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、各利用者の意思表示を見逃さず排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を記入し、排泄意志を声掛けや仕草や表情から読みとり、さりげなくトイレ誘導をしている。立位の難しい方にも2人介助で行い、骨盤底筋体操も取り入れ自立支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録表を時間毎に記載しスタッフは介助毎にサインしている。医師の指示のもと、便秘薬の管理をし便秘時には看護師や医師に相談して解消を図っている。おやつは芋類、寒天などの手作りを提供している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その時の様子を見て順番や日にち等柔軟に対応している。入浴嫌いの入居者は誘い方である程度楽しめている	入浴は気持ち良く入れるよう希望を聞き、冬季にはヒートショック防止に努めている。入浴拒否の方も職員の絶妙な誘いで入浴し、「気持ち良かった」の声が聞けている。体の不自由な方は二人介助で、入浴できているが、シャワー浴も効果的に利用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の対応を充分にし夜間眠れるよう支えている。室温や湿度など季節に応じて調整している。体調を考え昼寝などの休息もされている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師、医師と対応し、服薬管理には特段の注意を払っており、入居者別の薬ケースで管理し、蓋の部分に用法、用量を記載し管理している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	天気の良い日には毎日散歩が日課になっており畑の作物や花で季節を感じ、近所の方との挨拶や会話をされ、時に買い物に出掛けられる		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は常に散歩に出かけ、希望に応じてコープやコンビニへの買い物に出掛けている。普段は行けない場所は今は家族単位の外出になっている	天気の良い日は近くの公園に外気浴に出かける。桜の時期は桜並木を散策し、落ち葉の季節には、落ち葉掃きに加わり、季節を堪能している。利用者が誘い合い近くのコープやコンビニへ買い物に出かけたりと、社会性の持続の支援も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお小遣いとして預かり職員と一緒に買い物に出かけ必要な物を買っている。領収書と出納帳を家族に確認してもらっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室に携帯電話を持っている方もいますが、ホームから家族に電話をかけた時や電話がかかった折に、家族との会話を楽しんでおられる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間の入り口には目印を付け、混乱を防いだり、季節感を取り入れてディスプレイしたり、感じ取れるよう配慮・工夫しています	利用者の方が毎朝床のモップ掛けをかってでている。壁には季節感のある明るいディスプレイがされている。居間の一角にある調理台から料理のいい匂いが漂い、家庭的な雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者が使いやすいように設計されスペースにあったソファ・椅子などを置き、自由に過ごせるようになっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者と家族が相談し、仏壇や筆筒などそれぞれの家族がなじみの家具などを持ち込み、季節の花なども持ってきて飾られている。安心して過ごせるよう個性的に作られている	ベッド、筆筒や思い出の品が持ち込まれ、その方にとって家庭と同じ、安心して過ごせる個性的な自分の部屋となっている。動線上には物を置かず、また不穩の原因となる品を置かない配慮がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・トイレの入り口には目印をつけて混乱を防いだり、できること・できないことを見極め、できないことをお手伝いし利用者の尊厳が保てるケアを心掛けている		